



えちな
サキュバスお姉さん
と
快樂セックス♪

フルカラーCG集
基本CG13枚
本編72枚
文字無し72枚
合計144枚
制作 むらとう

いつものような金曜日、
僕は会社から帰宅したあと家でくつろいでいる。

今週は忙しかったが、やっと休める！
と思いつつ、週末はずっと家にいる予定しかないし、
特に楽しむこともない…。

はぁ…何か気分がスッキリするようなことないかな。
平凡な毎日にモヤモヤする気持ちと裏腹に、
無性に日常から『解放されたい』と性欲だけがつのる。

『解放されたい』だなんて。
美味しそうこと言うわね♡



突然、謎の声が僕の脳に響く。

誰だ？女性？どうして…。
不審な声に、慎重になる。

怖がらないで…
あなたの放つ香りが
とてつもなく美味しそうで…。
痛いことはしないわ。

すると、凄まじく露出が高い格好のお姉さんが目の前に現れた。
悪魔…のコスプレか？
エロ過ぎて、目のやり場に困る。

ふふっ、目をそらしちゃって
可愛いよね。
淫魔…って知ってるかしら。

さ、サキュバスとかの…？

そうよ、私はサキュバス。
あなたの精気、ほんとうに濃厚で…
いただけないかしら？



サキュバスって…あんなの漫画とかアニメの話だろう、
これは夢か？

それにしても、お姉さんはごちそうを見るような目で僕を見ている…。
嬉しような不安なようなゾクゾクが、なぜか僕を刺激する。



うっ

でも、いただくってどういう…



こういうことよ…♡好きでしょう♡

お姉さんは僕を押し倒し、やさしく股間に触れる。

重厚感のある暖かいおっぱいの感触を横に感じながら、股間に集中する優しい手触りに、反応せずにはいられない…。

好きです…

ドサッ

ナヌ

ナヌ

ふふっ

お姉さんは僕の返事に、嬉しそうに笑顔で答える。

じゃあ早速…気持ちよくしてあげるわ♡

スッ…

ニッ

そういうと、彼女はゆっくりとズボンと下着をおろした。
僕のチンコは既に熱くなり、興奮を隠しきれずにいた。





はああ…本当に美味しそうっ♡
早く食べちゃいたいわ

お姉さんはゆっくりと手を動かした。

…っ、触り方エロい…

んふっ…まだまだだよ、
覚悟してなさい♡

シユッ
シユッ

徐々に早さが増す手の動きに、されるがままに気持ちよくなっていく。

息が荒くなってきたわね、気持ちいいかしら？

しゅっしゅっしゅっ

気持ちいいっ…
そんなに早く動かされたら…っ！

動かされたら、なあに？

余裕のある彼女は僕の反応をみて楽しんでいる…。



おちんぽはもっと早くしてって言ってるわ♡
もっとほしいのねっ♡

丁度気持ちよく上下する彼女の手は悪魔的に完璧なリズムで動いている。

ちゅゅ
ぬちゅ
ぐわん

はぁあん…
もう本当よだがでちゃうっ♡
私も我慢できないわっ



彼女は床に跪き、僕の股の間に顔をのぞかせる。

思いきりチンコの臭いがかげると、少し恥ずかしい…
けどそんな変態なお姉さんにぞられる。

んあっほんっといいにおい♡♡
頭にガンガン響くわっ♡

汗臭くない…？

汗臭くて最高よ…？んん♡♡
恥ずかしがってるところも可愛いのね♡



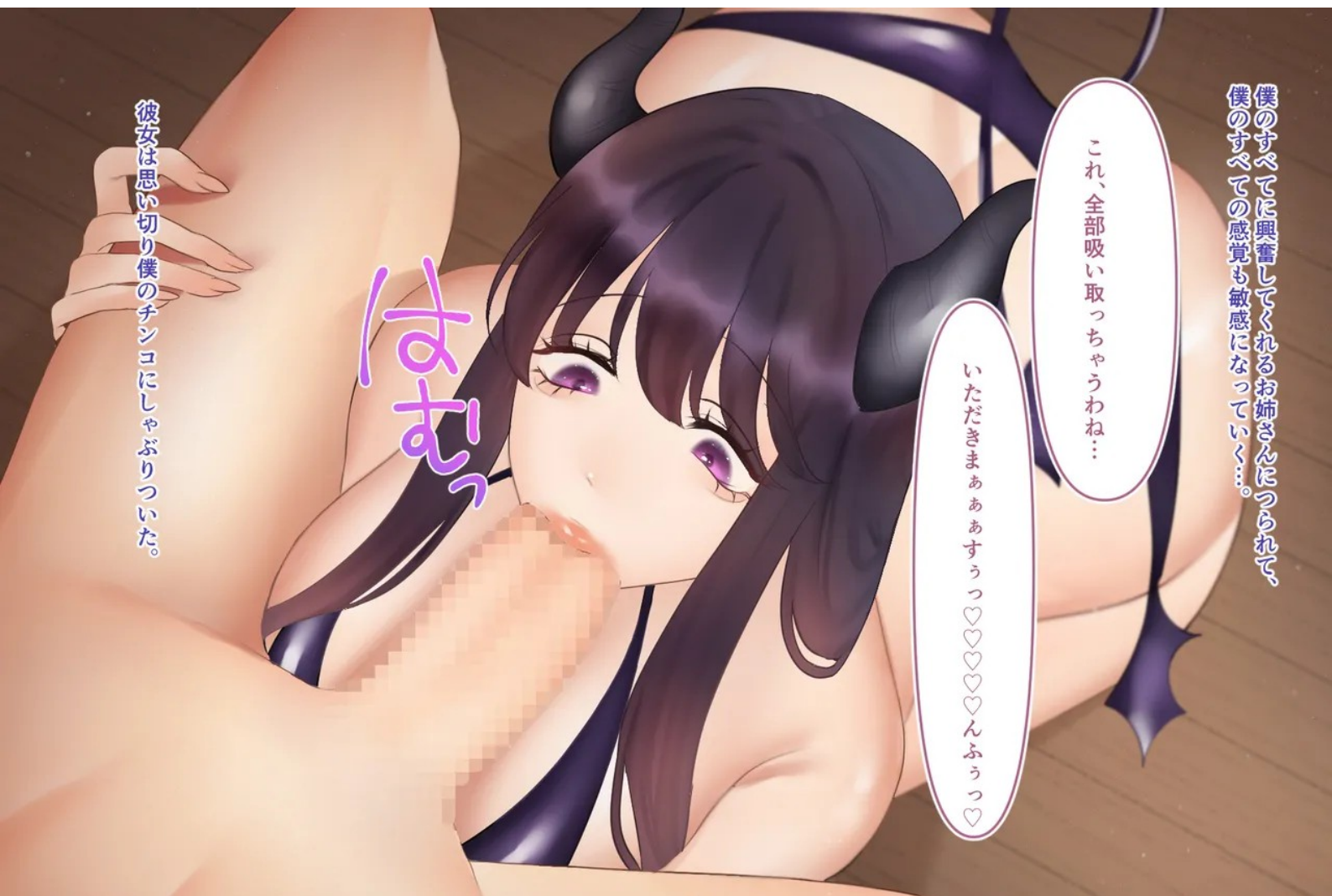
僕のすべてに興奮してくれるお姉さんにつられて、
僕のすべての感覚も敏感になっていく...

これ、全部吸い取っちゃうわね...

いただきまあああすうっ♡♡♡♡♡んふうっ♡

はむっ

彼女は思い切り僕のチンコにしゃぶりついた。





彼女の暖かい口内がジーンとチンコから伝わってくる…。
舌の動くもまんべんなく、僕の弱いところを刺激する。

んんふう…おいひい♡♡
ちうううっじゅるうっ♡

きもひいうう…これ、ふきい？？

うんんんんんん

じゅわっ

じゅっ…じゅるるるるっずずっ♡
じゅぽっじゅぽっ♡

ん…あつ…はあ…
やばいっ…えろすぎ…

んふ♡

すぽっ
ちゅっ
ぽっ

そう微笑むと、彼女はさらに力強く僕のチンコを吸い続けた。



おひんほ、おいひいっ♡おいひいっ♡♡

ああっ…もう、きもちいっ♡
イきそう…はあっ

さらにスピードが速くなる。

んんん

ゴゴゴゴ

ズズズズズズ

ズズズズズツツ…じゅりゅりゅっ
ズツズズズツツ♡♡♡

ああ…でそっっっ



うん、うん、うん



ふふ

ジュルルルッ

んんっ♡♡んんひっ♡
...ごっくん...んあっ、はあ♡

あなたの味、特別よ...
おいしかったわ。また来るわね♡

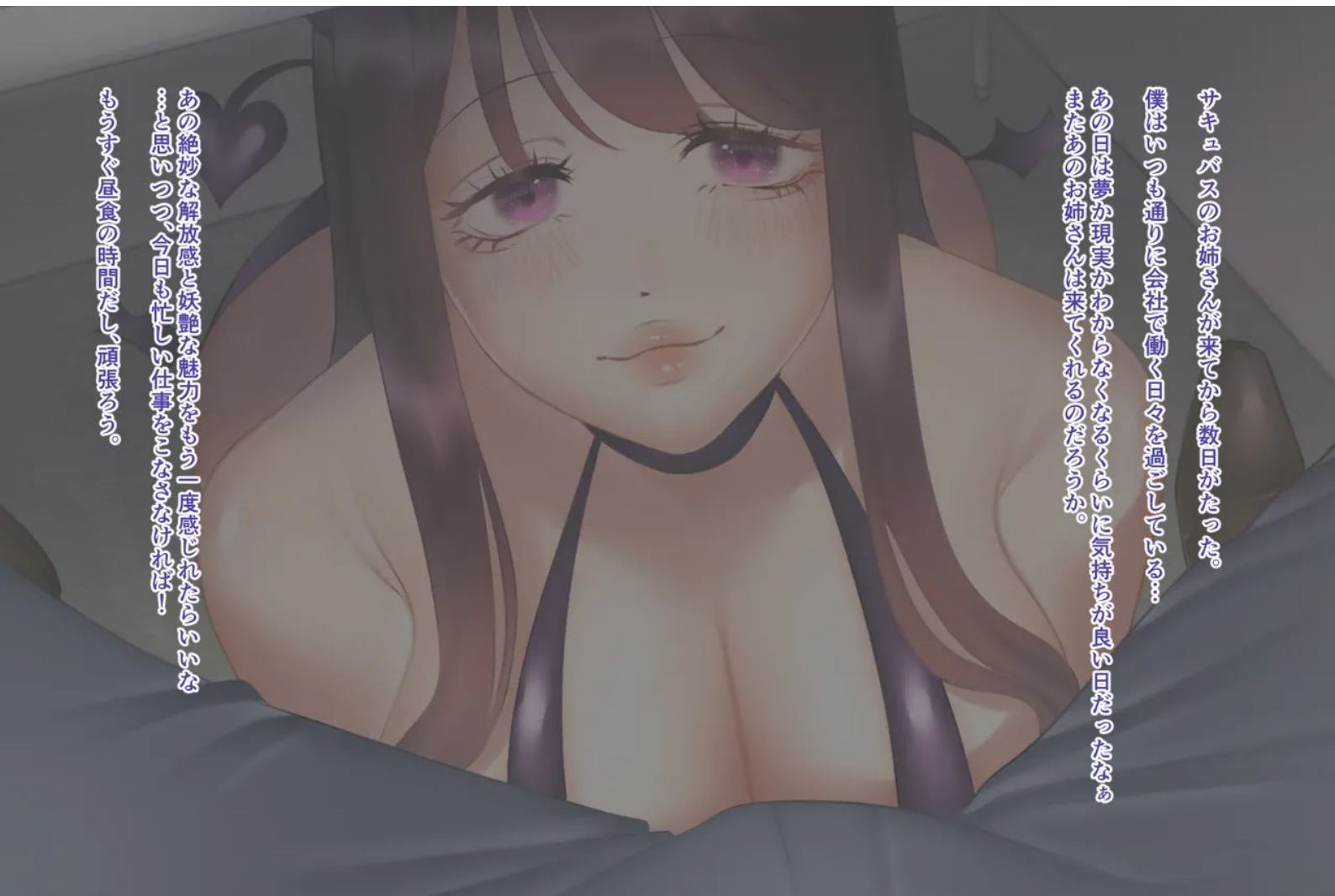
満足そうにそう告げると、彼女はいつてしまった。

サキュバスのお姉さんが来てから数日がたった。

僕はいつも通りに会社で働く日々を過ごしている…

あの日は夢か現実かわからなくなるくらいに気持ちが良い日だったなあ
またあのお姉さんは来てくれるのだろうか。

あの絶妙な解放感と妖艶な魅力をもう一度感じたらいいな
…と思いつつ、今日も忙しい仕事をこなさなければ！
もうすぐ昼食の時間だし、頑張ろう。



なにか突然、股間に違和感を感じるな…
服が机の下に引っ掛かっているのか？
奇妙な感覚を不思議に思い、デスクを確認する。

そぉー

こんにちはあ♡ばれちゃった？

!!

デスクの下には、あのサキユバスのお姉さんが隠れていた。

ビクッ

なにしてるんですか!!
こ、こんなところで!!

僕は極力他の人に気づかれないように、小声で問いかける。

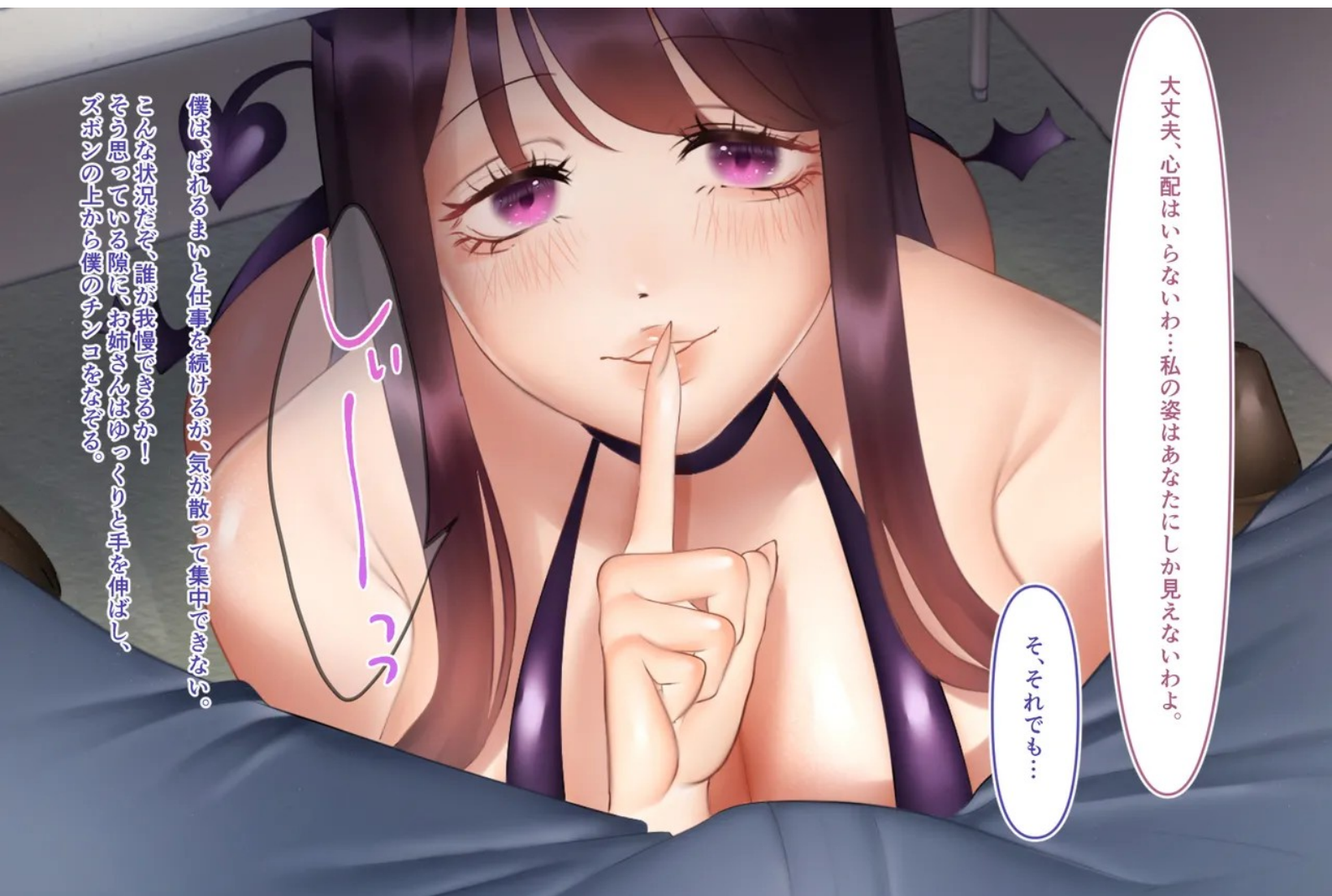
ふふ…いいじゃない、ちょっとお遊びしたいと思ったのよ♡

大丈夫、心配はいらないわ…私の姿はあなたにしか見えないわよ。

そ、それでも…

僕は、ばれるまいと仕事を続けるが、気が散って集中できない。

こんな状況だと、誰が我慢できるか！
そう思っている隙に、お姉さんはゆっくりと手を伸ばし、
ズボンの上から僕のチンコをなぞる。



ちゃんとお仕事してて偉いわね♡
ご褒美をあげたくなっちゃうわ…

ちょっと、あまり刺激しないで…。

あら、そう？そうは見えないわよ…
ふふ、もっとしてほしいのでしょう？

そろ…

ナニす

ナニす

ナニす

それはあなたが…触るからで…っ

ほら、あなたのおちんぼだってこんなに喜んでるわ♡

段々と熱くなる股間に気をとられて、全然集中できない…。
面白がっているのか、お姉さんはさらにぐちゃぐちゃと手つきで僕のチンロを撫でる。

もうっ…我慢できないって！

彼女にはやりとほほ笑む。

ニコッ

すい

すッ

ちよっ、ちよっ、と早めの昼休みしてきます…!!
お先に失礼します…!!

そう告げると、僕は急いで立ち去った。



僕らはトイレへ到着すると、即座に個室へ駆け込んだ。

あれはズルいつて…

んふっ、邪魔しちゃってごめんなさいね♡
あなたの精気が恋しくて、我慢できなかったのよ。

ふふっ

くはあ…♡

そういながら、誘うように彼女の美しい身体を見せつけてくる。

ガタッ

はやくちようだい♡♡
もうココがうずうずしてるのっ

スッ

ゲゲゲ...
ホロッ

あらわになった彼女のマンコは既に準備万端...
でも、会社のトイレでやるなんて...
と緊張しながらも、僕のチンコも準備万端だ。



入れるよ…っ、はぁ

んぁぁはぁ、んっ♡♡
これっ♡ほしかったのお♡

マンコっ…きつつ、きもちいい…っ

す..ふ..ふ..ふ..ふ..っ

きゅん..きゅん..

あぁっ、いいわっ…
もっとおっきくなってる♡♡♡
おねがいつ、ぐちゅぐちゅしてえ？

さっきの余裕とは裏腹に、おねだりをする姿が最高にエロい。

性欲を煽られるままに、腰を動かす。

はぁっ…僕の、そんなにおいしい？

おいしいっ♡きもちいいわっ、
やめないで…んんっ♡

ふんっ

はぁっ
はぁっ

ちゅっ

ふっ…下のお口、ぎゅーっしてて…
エロすぎるよ…

んほおっ♡もっとっ！きもちいいのっ…ほしい♡

ぬちゅっ
ぬちゅっ
ちゅっ

僕はさらに腰を早く動かす。

ああああはあっはあっはあっんっ♡
やんっ♡♡きもち、よすぎるわっ♡

どんどんキツくなって…っ
締め付けられるっ…はあっ、はあっ

やばいこれ…っんっ





で、でるっ

んむうっ、おっ…おっ、おかおにちよおだっ、い♡♡

んっ…う…うっ…!

ドピュルル

キラキラ♡

ふっ

ふっ

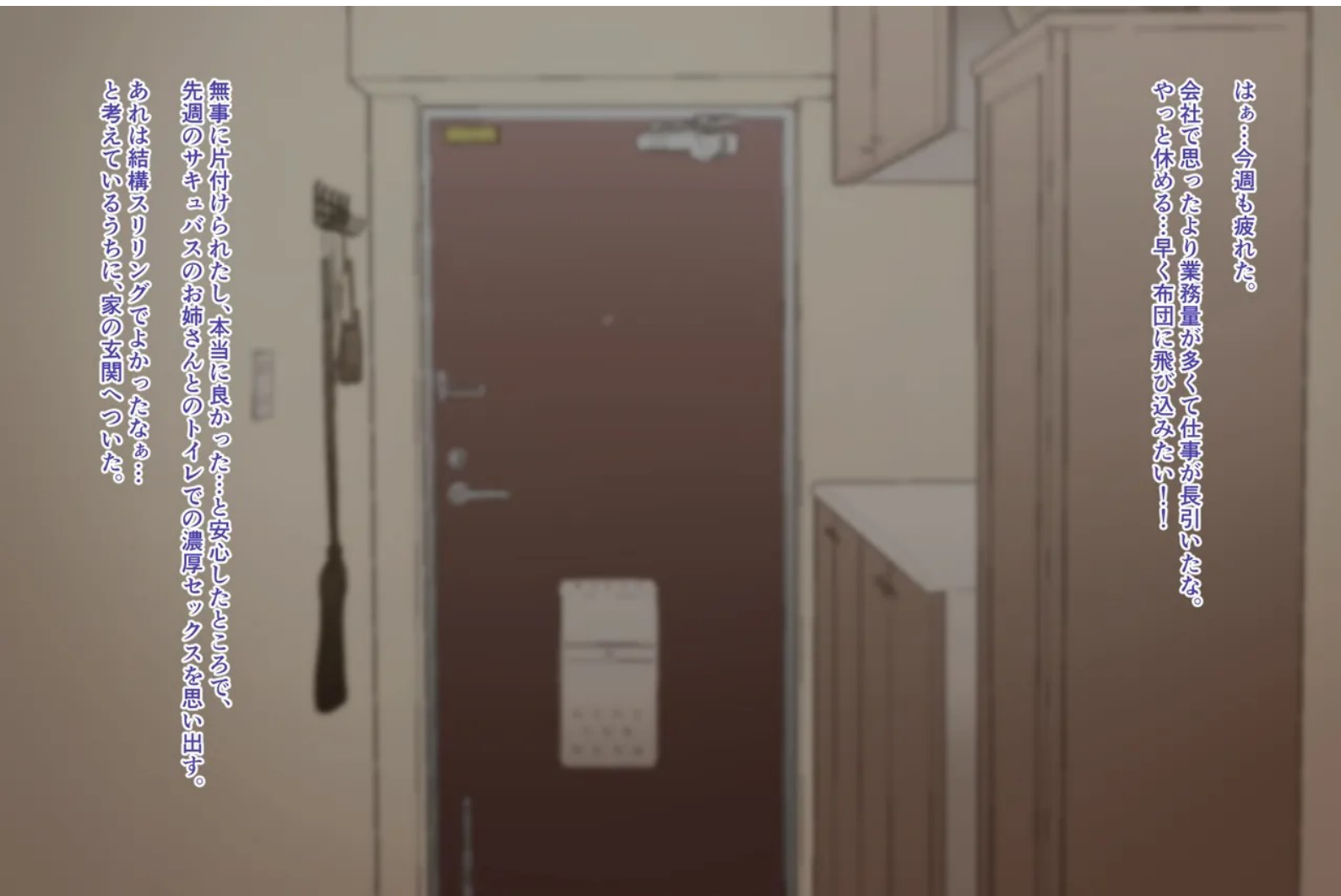
ああ…へっ…はあっ…んんおいひい♡
のーこーであまあい…♡ごちそおさま…っ♡♡

ジュンジュン

はあ…今週も疲れた。

会社で思ったより業務量が多くて仕事が長引いたな。
やっと休める…早く布団に飛び込みたい！！

無事に片付けられたし、本当に良かった…と安心したところで、
先週のサキュバスのお姉さんとのトイレでの濃厚セックスを思い出す。
あれは結構スリリングでよかったなあ…
と考えているうちに、家の玄関へついた。



玄関ドアをあけると、そこにはサキュバスのお姉さんが待っていた。

あ…！

ふふっ、おかえりなさい…お仕事お疲れさまでした♡

は、はい…ありがとうございます…ぐっすりします！

また今日もエロい…
疲れているはずなのに、僕の中でうずくものあった。

ガ
チャッ



私…すっごくお腹すいてたのよ…？
でも忙しそうだったから、待ってたわ。
焦らした方が、もっとおいしく感じるものね…

ははっ、面白い…

が

っ

が
や が
や

すると、外の音が聞こえてきた。



ごめん!!
今日部屋汚いから外で待ってて、ほんとごめん!

大丈夫だよ。ここで待ってればいい?

うん、すぐ持ってくるね。



隣の部屋の住人たちの声が玄関に響く。

そうだな、ここは壁より薄いドア一枚しか間がない…。
ここでセックスをしたら…聞こえてしまうかな。聞こえないかな…。

そんなことを考えながらお姉さんをみると、彼女も同じ目をしていた。
聞こえてしまうかな。聞こえないかな。聞かれちゃうか…？

ゴウリ…

ニヤァ…

僕らはお互い考えていることを理解し、笑みを交わした。



もうペコペコよ…いただいていいかしら…

彼女は徐々に僕に近づいてきた。
恐ろしいほどの色気に僕は吸い込まれるように魅了される。

すいっ

いや、待って…今日は先に僕がいただくね…



僕は彼女を玄関ドアに押しつけ、胸に手を伸ばす。

ふふふふふふ

ふふ…今日は積極的なのね。
そういうのも好きだわ…♡
ゾクゾクしちゃう

本当、身体綺麗だね…
やわらかいし、エロい…。

僕が触れるたびに、嬉しそうに身体がびくん、びくんと動いている。

ドゥーン



そう言いながら、僕は彼女の乳首をゆっくりさする。

「こはとう...? 好きかな。」

ズンズン

ズンズン

ナニも...

好きよ...もっといじってちょうだい...
そんな、焦らすことないわ...

...

今すぐ舐めまわしたい。そんな衝動を抑えながら、指の速度を上げる。



僕は我慢できずに乳首をおぼる。
れるれる、と舌で乳首をなめくります。

…声我慢してる？
抑えなくてもいいよ。
でもそしたら外にいる人に聞こえちゃうかな

はあっ…んっ
…それ、すきっ…ふうっ、んん…

ふふ…っ♡
あなたの舐め方がいやらしいからいけないのよっ
…はあっ、んん♡





やわらかい彼女の胸をグ——と引っ張りながら、
思い切り吸い尽くす。

んんんおっ♡
おっ、おっばいきもちいのお…っ
あんっ、はあっ…

ンン——ッ——

はあうっ…い、いだきもちいの♡♡♡
きもちいのわあ♡♡♡

僕は彼女を玄関ドアに押し当てて、ふくよかなお尻を掴む。

はあっ……もうそろそろ入れようか……っ

あぁっ、お願い……っ、きてっ

彼女のマンコは既にぐしょぐしょに濡れていた。
僕のチンコは抵抗なくずぶずぶと入る。

んんんあぁあっっ♡♡♡
おちんぽっ……
はいつてくるのわかりゆう♡♡

こんなに濡れてるよ、
ぬるぬるして……っ、きもちいい……っ



きゅっ…まんこ、締め付けられて…っ、やばいっ…

はっちゃん

はっちゃん

んふっ…っ♡ああっ、きもちいっ
…えっちな音…あんっ、沢山出てるっ

はっ

ふっ…これじゃ外に
聞こえちゃうね…っ、うっ





ンンッ...♡はあ...はあ...
ふふっ、私もっとソクゾクしたいわあ♡
もっともっと...っ...じゅぶじゅぶしてえっ..?

はぁっ
ちゃん

はぁっ
ちゃん

ねだる声に、僕のチンロはさらに反応する。
はぁっ

すると、ちようど外の音が再び聞こえてきた。

ぐりっ……

おまたせー!!
ごめん待たせちゃって
…あとよかったらこれ食べてね!

いいよ、ありがとね。なにこれ
…うわっ、美味しそう!

どうやら玄関で会話をしている。

ああ…隣の部屋ではこんなエロシーンにしているなんて考えてもなげだっらな…。

ーッ……

僕は、緊張しながらも彼女の奥まで突いた。

ズ
ン
ズ
ン
ズ
ン

~~~~~つつつつ!!  
アアアンツツ、はあっ...  
...んんんっ、おうっ、奥...つきもちいのお♡♡♡

ぬ  
ちゅん

ドン

ピ  
ン  
ピ  
ン

はあ...っ、これがいんですよ?

んんう...っ♡♡これ、好きよ...っ  
...ああっんっ、はあ、後ろから...あ  
気持ちいい...えっちな汁ぬちゅぬちゅいつてるう...っ

お  
げ  
っ





僕は思い切り腰をぐっつけぐりぐりと奥に届くように押し付ける。

ぽんぽんぽん

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぽん

あああ……っ……  
き……きもちいところ……あたってるっ……わ……  
ぐりぐりぐりぐり、すき……い……う、ンンッッ♡♡♡

イグッイグッ……いつちゃうううう♡♡♡

う……やばいつ、もうダメ  
マンコが……ギュー……っしてしめてきて……っ  
イクっっ

ぐちゃぐちゃ



ドクドクドクツツ…。ねっとりとしんわり暖かい液があふれる。

はあっ…はあっ…

うっ♡うっ…♡

彼女は腰をビクンビクンと震わせていた。

せーし…っ  
す…すっごくよかったわあ…♡♡♡  
クセになっちゃいそう…っ♡♡

ぽんっ  
ぽんっ

ピクッ

次の週末、僕はまた家でくつろいでいた。

家の片付けも終わって、すっきりしたな。  
ベッドに飛び込むと、新しいシーツの匂いにリフレッシュされる…。

スマホを見ると、19時近くだった。

もうそんな時間か…。

夕食の用意でもしようかと立ち上がる。





何か気配がしたので、振り向くとサキュバスのお姉さんがいた。

また来ちゃったわ♡今夜は暇かしら？

相変わらず、えっろいムチュムチボディでそる…。



い、一応…。  
今から夕食でもしようかなって…。

あら…私もいただきたいわあ

…あなたを♡

♡

おねがぁい♡♡

と言いながら、彼女はそーっと手を僕の股間に伸ばし、やさしく触れる。

あらぁ♡夕食もいいけど、おちんぼはセックスの準備ができてるようだわ？

そぉー！

ふふっ♡

っっ…しょうがないよ…  
そんな触り方したら誰でもそうなるって…っ

ふふっ♡本当素直でかわいらしいわ…  
そういうところ、ますます食べちゃいたくなるのよ。



もう夕食なんて後でいいに決まってる…。

焦らすように触れるか触れないかくらいの力で  
優しく指をつたわせられるのと裏腹に、僕のチンコはぐんぐん勃起している。

すっすっ..

ニッ

ほら、どんどん固くなっていくわ…♡

…はあっ

今日は疲れてないし…沢山できますね…





最っ高じゃない…私も熱くなってきたわ…♡♡

彼女は僕のパンツを脱がし、  
やわらかく厚みのあるの胸で僕のチンコを包んだ。

「きゅんきゅん」

「んんん」

タラ——つと垂れる唾液の熱さを、直に感じる。



ぬるぬると、彼女は胸を上下に揺らす。

あったかい…やわらかくて、いいよ…っ

ふふ…よかったわ。  
そうね、あなたのおちんぽも…  
ドクンドクンしてて、暖かいわね…♡



ああ…チンコがおっぱいに挟まれて、気持ちいいっ!!  
こんな巨乳にパイズリされるなんて、ほんとに僕はラッキーな奴だ…。

どう?気持ちいいでしょう…?

あなた、顔がだんだんとろけてきているわ…  
おいしそうでたまらない…♡





ンッ…はぁ…っ、くっ…

うふふ♡おちんぽこんなにビクビクさせちゃって…  
そんなにおっぱいセックス好きなのね??

はぁ…

かわいい声だしちゃって…  
でもまだイってはだめよ♡  
我慢してちょうだい♡

というと、お姉さんはさらに激しく動かす。

ぬちゅっ、ぬりゅぬりゅっ…ばちゅんっにちゅっ…。  
エロい音が部屋中に響き渡る。

おちゅんっ

ぬちゅ

ばちゅ

ふんっ

ぬいゅっ

はあっ…はあっ…はっ

彼女とともに、息がだんだんと荒くなる。モノ欲しそうな眼をしている。

っ…はあっ…もう、入れさせて…っ、  
我慢…できないっ…!!

ふーっ  
にゅにゅ  
にゅにゅ  
ぐにゅ  
ぐにゅ

あぁあつ...いいいっきに  
 ...はいつてくるわあ♡♡♡  
 んんっ...ふうん♡♡♡

僕は彼女を押し倒し、チンコを押し込む。

あああつ…い、いつきに  
…はいってくるわあつ♡♡♡  
んんんっ…ふうんツツ♡♡♡

あつ…はあつ…  
おまんこ…ぐつしよぐしよに濡れてるね…  
チンコ早く入れてほしかつたんでしょ…？  
僕も、早く入れたくてしょうがなかった…っ



僕は容赦なく彼女のマンコを突いた。  
どちゅどちゅつとチンコとマンコが絡み合う音が脳に響く。

指先に感じる触感や身体を伝う体温、  
お姉さんの誘惑的な香り、  
全感覚がゾクゾクと興奮する。



んあぁっっ…はぁっ、は、激しいっ♡  
ケモノみたいに腰振ってるの…そそるわ…♡

ふっ…っ、誰のせいぞ、  
だよっ…はぁっ…

溢れる吐息、色気のある眼差し、  
すべてがエロい彼女にますます引き込まれそうになる。

んふふ♡あぁぁっ  
そこっ、すごいっ♡

とちゅっ  
とちゅっ  
お

きゅわうわうわと閉まる膣を強く感じる。

はあ…っ、今、締まったっ…きゅ…

んふっ♡心臓…ドクンドクンしてるのっ…  
はあっ、聞こえるわ♡かわいいのね…っ





そっちこそ…っ

彼女に煽られ、僕は腰をさらに激しく、奥まで、押し込む。

かき  
かき  
かき

んああああっ♡♡♡♡♡

はあっ…これ、きもちいいでしょ…

きもちっ♡♡♡♡んあ…っ  
~~~~~

彼女は無言で悶えている。

ズ
ッ

ズ
ッ





ああっ、これっ♡いいわっ♡
おっ…奥までっ、おちんぼ…っん
届いてりゅっ♡♡♡
き、きもち…っ、すざっ…♡♡♡

はあっ…くっ、んっ…
やばいっ、めっっちゃ締まる…っ…

ギユウウウウと搾り取られそうになるのに耐えながら、
腰を動かし続ける。

いっほ

いっほ

あーっ

びゅんっ



バック…大好きよ♡

彼女は体制を変え、マンコを差し出す。

んんっ♡でも、ま…まだ
ビクビクしてるからあっ♡

そうは言うが、今すぐにでも入れてほしそうな声して…。

マンコもとろっところに濡れてて、
色気ムンムンのおいがする…。

ふっ。。

ピクッ

ズッ

ふふ…早くう、おちんぼ入れてちょうだい♡

体制のせいかな？チンコを入れたとたん、さっきとは別のところを刺激されて、身体に電流が走ったような快感だ！

それはお姉さんも同じように反応しているのが膣から伝わってくる。

ぬふふふふふ
キーン



ああ…っ、はあ♡
さっきと違うところに当たって
き、きもちいい♡♡

んっ…ここ、でしょっ…
ビクビクしてるの
マンコから感じるっ…はあっ

ビクッ

マンコがキュウウウと締めまりながら、
ビクビクと波立ってる振動が気持ちよすぎる…。
僕は思うがままにずんずんっと強く腰を打ち付ける。

ぽんっ

キザウウウウん♡

ぽんっ



あああああつ…♡♡

きもちよすぎてっ、おかしくなりそうだわあ♡♡♡♡♡
ここ、すぎっ…すぎすぎっ♡ずぶずぶしてえ♡♡♡♡♡

エロ過ぎるおねだりに応えるように、
腰を振るペースがだんだんと早くなる。

ぴん／＼

ぴん／＼

はあ、

はあ、

はあっ…音、響いてるね…
えっちな汁がどんどん溢れてるっ
ナカも…っ、きっっ…くっ

ずん

ばん、

じゅぽ

じゅぽ

ずん

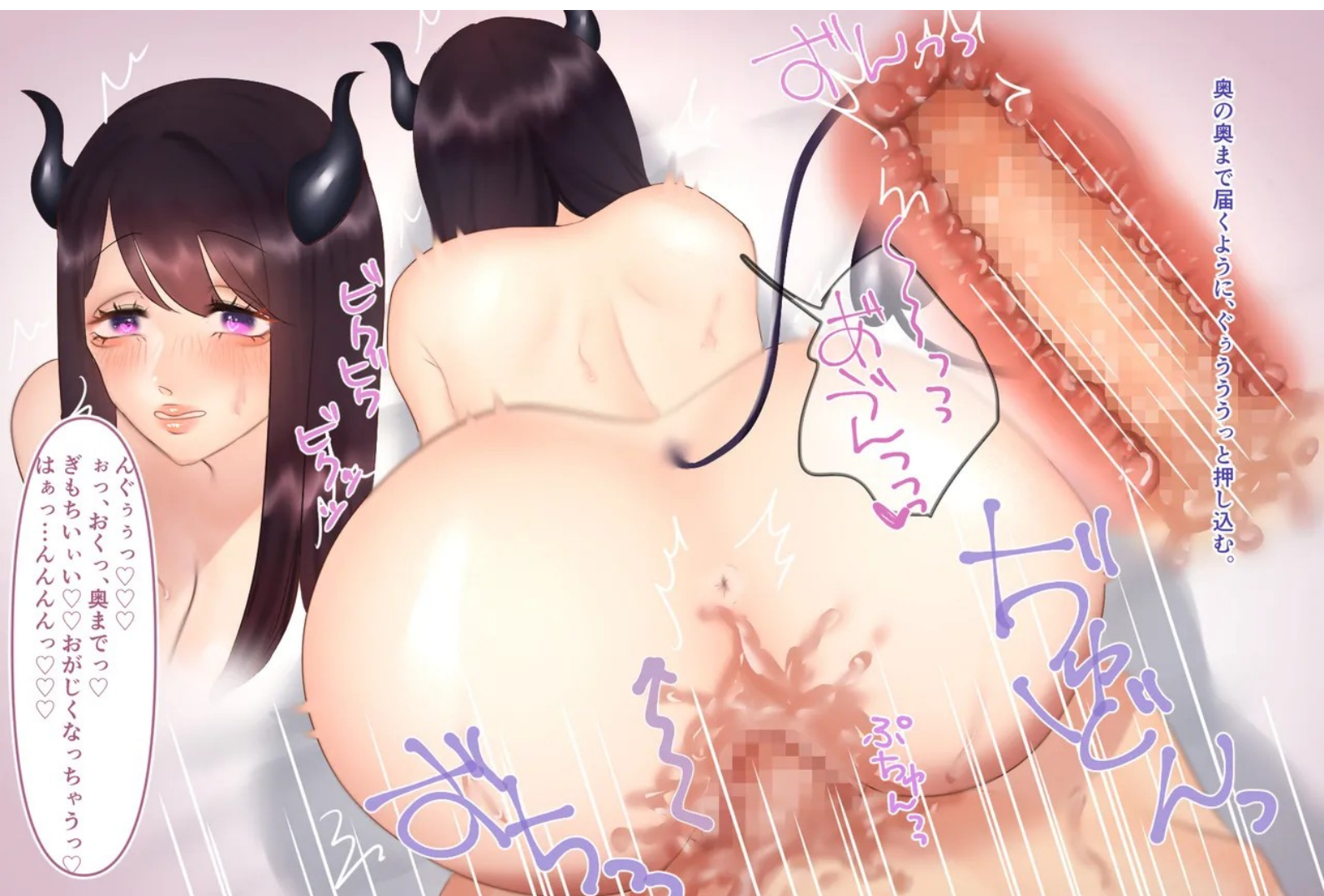
段々とのぼる快感の波を全身で感じる。

やばい…っ、マンコのナカきもちすぎて…
もう限界きそ、う…っ

おっ、ん…っ、うう♡♡ぎ、ぎもちっ♡
おちんぽ、すきっ…も、もっとないてっ♡♡♡

僕は思い切りチンコを押し付けた。







お、おくが...っ、きもちよすぎて...
はあっ、い、イキそう...っ
一緒にイこ...っ

~~~~~っっ♡♡  
ぐ、ぐりゅぐりゅしちゃ...っ  
んああっ、おかしくなりゅっ♡♡  
おまんこおかしくなってりゅうっっ♡♡♡

いっ、イきぞおっ♡  
いきぞ...っ、んんっ

僕もっ...ナカに、出すね...  
はあっ...い、いくっ、ツツツッ!!!

しゅん-ぱ

キュウウウウ-バツ♡

きゃん♡

じゅ

じゅ

じゅ

じゅ

おまんこ

はあ

はあ







中に出した精子がどくどくと溢れる。  
チンコをまとうぬつつとりとした生暖かさと、  
ドクンドクンと波打つ鼓動が絶頂の激しさを物語っている。

はあっ...はあっ...はあっ...

んんん...はあっ  
ううふうっ...♡♡♡

お姉さんは、まだビクンビクンと快感を感じていた。





はあ...はあ...っ

うわぁ...  
ぐんぐん

ぐんぐん

はあ  
はあ

彼女は股をぐばあっと開いた。

二人の体液がぐっちょぐっちょに混ざってエッチな匂いがむんとする。

ほら、これ…♡  
あなたのえっちな精液があふれ出ちゃってるわ♡  
ほんっとうに美味しくて大満足だわ…。

それどころか、気に入っちゃったみたい♡♡

そう言いながら、お姉さんは妖艶な笑みを僕に向ける。

ふふふ

ふふふ

じろっ  
じろっ  
じろっ

僕たち相性がいんじゃないの？  
気持ち良すぎて、絶頂のピークがものすごかった…。

ふふ…そうね、ものすごく良いと思うわ。  
あなた以外じゃ物足りなくなっちゃったもの…♡

覚悟してなさい、  
私ともっともっと、激しいセックスを  
したくなるようにしてあげるわ…♡  
また来るわね♡

僕は、サキュバスに氣に入られてしまった動揺とともに、  
尋常ではない期待と興奮を感じていた…。

終













































